

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500350		
法人名	社会福祉法人 恵光会		
事業所名	グループホーム 慈恵荘		
所在地	長崎県大村市東大村2丁目1616番地14		
自己評価作成日	平成 27年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 1月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvoCd=4270500350-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 27年 12月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

内科協力医が毎週全員の診察のほか別日にも数名診察がある。月2回の皮膚科往診、3か月ごとの耳鼻咽喉科往診、随時の歯科往診のほか、かかりつけ医への通院・付き添い支援も行っている。地元との防災協力会の組織化と年末に合同避難訓練の実施、消火訓練にも地元参加がある。施設内外研修会の開催と、関連協議会合同での研修会の企画からの参加。目標管理面談と目標シート記入による全職員の育成面談の実施。地域行事や近隣小学校行事への開設時からの参加。個別の買い物・外食・外出支援。職員の定年延長を含む平均勤続年数の長さ。医療連携加算は算定していないが、1名を除く殆どの職員がターミナルケアを経験し、1人は胃ろうによる経管栄養・口腔内の喀痰吸引従事者認定証を取得している。土日を含む毎日の入浴、毎日の健康体操を継続している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当時から理念を基に、職員と共に毎年度の行動方針を目標として掲げ「まごころと思いやり」を持った支援に努めている。他ホームと協働しながらスタッフの交換研修を長年続けており、他ホーム職員の意見や日々の中で気付いた事を職員同志で話し合いながらできる事は改善していく姿勢を持ち、職員は外部研修への積極的な参加や自ら行う自己評価(チェックシート)を通して自己研鑽に努めている。施設全体が土砂災害警戒地区である事を全職員が認識し、敷地内の同法人施設と協力して職員・入居者が共に避難訓練に取り組んでおり、地域の火災には駆けつけ消火活動を手伝う等実践に繋げている。入居者個々を尊重し、メリハリのある生活の中にも自由に暮らす様子が窺え、今後ますます期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

グループホーム 慈恵荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人開設時の50年前からの理念である「至誠天に通ず」を、利用者・家族・職員等にも理解しやすいように「まごころと思いやり」という言葉で掲示し、接遇面でも意識して取り組んでいる。	理念を基に、職員と共に毎年度の行動方針を目標として掲げている。職員は外部研修への参加や自己評価を通して自己研鑽に努め、理念と行動方針を実践できるよう取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、夏祭り、神社祭り等への毎年の参加など、地域との交流を大切にしている。また、認知症カフェにつながればと、キッチンカウンターを作っている。	地域行事への参加したり、また、消防署立会の避難訓練に地域住民の見学参加があったり、地域の火災に職員が駆けつけ消火活動を協力した事例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域行事への参加を通じて、介護保険や認知症に関する相談も受けて、対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	きめ細かな取り組みの情報を開示し、事業所やグループホーム全般、市内・県内の情報も報告して、意見の活用につなげている。	行政・地域住民・入居者・家族が参加し、情報交換や報告を行っている。民生委員からの積極的な協力があり、地域の方との協力関係に繋がるよう取組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険運営協議会や認定審査会、地域包括運営協議会等の委員も務めており、日頃から協働して課題解決に取り組んでいる。	各行政担当者と協働し運営推進会議等で得た情報を基に介護保険や認知症に関する相談に応えるよう努めている。現在消防署と協働して、緊急時における救急車要請時の様式をよりよいものとなるよう作成協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修のほか、市内協議会でも研修を企画・参加し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。本年度は研修申し込みが該当し、研修受講済みが3名となる。	本年度は県の研修に参加し、全職員が身体拘束をしないケアの実践に努めている。やむを得ない場合にベッド柵を使用する事を家族へ説明・同意を得た上で使用している。職員は見守る支援に心がけ、入居者は自由に散策している様子が窺えた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の虐待防止マニュアル作成にも直接携わり、複数の職員も研修履修済みで、定期的に職員面談等で未然防止にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の権利擁護委員会の委員も務めており、困難事例検討会にも直接携わり、利用者にも制度を活用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の段階から十分に説明をしたうえで、書類を確認・署名する時間的猶予も設定している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	大村市の介護相談員派遣事業を毎月積極的に受け入れており、報告書記載の他事業所の出来事も参考にして改善につなげている。	要望がない事がいいとは考えず、家族から一言あるような、意見を言ってもらえる関係作りに努めている。家族の高齢化も考慮し、入居者の緊急時の連絡先として他家族との連絡も取れるよう検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期開催の勉強会や、日々の引き継ぎ時、随時の相談・個人面接での相談の機会を確保し、建設的な意見や目標設定も確認している。	各職員が目標を持ち自己評価(年2~3回)を行い振り返る機会とし、管理者は面談を通じて相談に応じ、意見を反映できるよう努めている。また、他ホームとのスタッフ交換研修を通じ、他ホーム職員が気づいた意見も取り上げ改善できるよう取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、認知症介護に昭和の時代から先駆的に取り組み、ホーム開設時から管理者に運営を一任している。人事コンサルタントも導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内・外研修や市内各協議会の勉強会にも複数参加し、極めて質の高い研修にも全職員が参加しやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内協議会での事例検討や、事業者相互評価、スタッフ交換研修、スタッフ研究会等、連携と質の向上へ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談の際には、本人・家族・関係機関から話を聞くようしており、入居時のケアプランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の勤務によっては夜間に自宅訪問し、現在の暮らしぶりや困っている事等を聞きながら要望を引き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容に応じて、他機関を紹介したり、連絡調整したり、次につなげる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・裁縫・園芸など、今でも教えてもらう機会がある。職員によっては、結婚に関する相談をし、適切な助言を頂いたこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にできること、負担にならないことであれば、事前に協議して共に協力してもらうようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や行きつけの時計店、スーパーなど、情報収集して大切にしたいところは継続している。	収集した情報を基に行きつけの店や買い物に出かけられるよう支援に努めている。家族や知人の訪問時には居室やホーム内でゆっくり過ごせるよう配慮し、家族や思い出の写真を飾る等関係が継続するよう取組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族から頂いたお菓子等は、利用者の方に紹介しながら、お互いにお礼や言葉が言い合えるように関係づくりを意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関へ退所した家族が、知人の入居相談に來られたり、懐かしくて來ましたといこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活のみに限定せず、利用者尾の希望を尋ねながら、最善の環境をチームで検討している。	入居者との会話や行動等から希望や思いを把握するよう取組んでいる。家族から昔話を聞き支援に繋げる事もある。言葉が出にくい、単語で話す方には筆談も交えての支援に取組んでいる。	ヒヤリハットの体験は観察力の表れでもあり、入居者の思いを把握するための1つのツールと考えます。記録に残す事で、更なる入居者の思いの把握に繋がる事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接調査や入居後の訪問の際に、必要な事項は信頼関係を築きながら確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・睡眠・排泄・活動・服薬・習慣等に関する観察と記録に基づき、一人ひとりの生活パターンを把握したうえで対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントと希望の抽出、個別の検討会の開催により、本人本位の介護計画となるように努めている。直接手書きでの希望もある。	担当者会議で話し合い、前回の計画書の目標1つひとつを確認しながら入居者の状態に応じたものとなるよう、職員や関係者の意見を反映し計画書を作成するよう取組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、バイタル表、睡眠排泄表、服薬管理表、検診データや全体の共通用紙、状態に応じて個別の記録で、次につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の活動や外出支援、全員で出かける時は併設施設の機能を活かして送迎や付添支援を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署とは日頃の避難訓練のほか、協議会での消火大会の窓口的役割により連携と親睦を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医の継続のほか、内科協力医の毎週の往診、歯科・皮膚科・耳鼻科の往診・通院など、状態に応じて対応している。	入居者・家族の希望を優先し、協力医の毎週の往診（内科）と他専門医と協力しながら、適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。服薬の使用や量についても、入居者の状態・バランスのいいところとなるよう医師と相談しながら支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科医の往診・採血・処置・胸部レントゲン撮影時には併設の看護師が立ち会い、日頃から顔・名前・状態がわかっている。利用者の部下だった看護師もいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報交換や病院での食事介助、洗濯物の引き取りやバットの補充など、入院による不安の軽減や関係の継続、関わり記録もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や連携機関と早い段階で意向や体制を確認しながら取り組んでいる。	ターミナルケアは実施しない方針であるが、入居者・家族の意向を確認しながらホームで対応できるギリギリまで支援するよう取り組んでいる。ホームで亡くなった方の経験や緊急時の対応に備え、消防署の救命講習を全職員が受講するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習、上級救命講習、防災訓練の傷病手当、その他の勉強会の開催を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域の防災協会の組織化で定期的訓練の開催や、県の大規模災害訓練の実施施設にもなったことがある。	消防署立会の避難訓練や年数回の自主訓練を実施し、全職員が避難手順や消火器の使用方法を体得できるよう取り組んでいる。また、土砂災害警戒地区となっており、職員はその危険性も認識した上で訓練に取り組んでいる。前回受審後、居室吐き出し窓からの避難訓練を実施し、入居者と共に有事に備えている。	備蓄品について有事に備えた物と日常で消費しながら備蓄できるもの等、再検討する事を期待したい。また、非常持ち出し用のファイルに写真（顔・全身）を添付し、有事の際入居者と個人の情報が第三者にも分りやすいよう工夫する事をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する規定があり、法人の理念である「人を敬う」ということを大切にしている。	法人理念の「人を敬う」ように心がけ、職員は自己評価を通して言葉遣いや支援方法について振り返り、入居者個々の人格を尊重した対応に努めている。人生の先輩として職員が入居者へ相談する事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の尊重はホームの運営方針の一つとして開設時から掲げており、選択肢を提案する場面が生活の中に定着している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	戸外への自由な散歩や、買い物への要望は個別に対応するなど、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液・化粧の支援や、特別な日は着物や浴衣の着付けの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の買い物・調理・盛り付け・配膳・下膳や、畑での野菜作り等一緒に行うことで、役割や生きがいを発揮できる場面づくりをしている。	入居者は食材の皮むきや下準備等調理や片付けを手伝い、職員は入居者の力を活かせるよう声掛けしながら共に食事を作るよう取組んでいる。共に食事をしながら、食材や手伝ってもらった事へのお礼の会話をしている様子が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の茶碗で管理栄養士に確認してもらうなど、併設機能をいかしたり、補助食品業者の栄養士ともかかわりがある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、寝る前の義歯洗浄、舌ブラシの活用、パタカラ体操、研修会参加等で実践を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の間隔やサインを確認し、尿意・便意がない方も誘導を試みるなど、状態に応じて随時見直している。	職員はオムツ等を使用する事の違和感を理解し、日中は入居者の状態に応じてオムツ・パット・(女性用)シート等を使い分け、不必要に使わないように努めている。車椅子使用の入居者の状態や介助方法に合わせて、広いトイレ・狭いトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・食材・調理法・管理栄養士を講師としての勉強会・体操・薬の活用や、個別リズムに対する対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は毎日入ることができる。個別の状態やプライバシーにも配慮した対応をしている。	職員は見守りながら、長湯する方には声掛けしながら入浴支援に努めている。温泉が好きな方はケアプランにも記載し、温泉へ共に出かける事もある。過去には入居間もない入居者の誘いに、馴れない環境への不安を取り除くよう職員が共に入った事もあった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れやすい方には昼間に休息や下肢の浮腫軽減策をとったり、眠れない方には添い寝をするなど、個別に工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員、お薬手帳と薬局の一本化で情報共有し、個別に粉薬などの特性も周知され、薬の重複も無いように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	玄関先の花へ水やり、畑仕事、地域で児童と茶もみ、掃除や洗濯物干しとたみなど、日々の役割を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は鍵をかけない介護をしており、自由に戸外に出られる。季節感を肌で感じるドライブや外食・日用品の買い物支援をしている。	花見やドライブ、スーパーへの買い物や温泉へ出かける等、入居者個々の要望に応じた支援に努めている。家族の協力を得ながら共に外食へ出かける方もいる。また、家庭菜園の手入れをする方もおり、入居者が自由に外出できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額持つことで安心する方は手元に持っており、買い物時に支払う機会もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望時にはいつでも無料で使えるようにしている。活動として手紙やメッセージを書く機会もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や観葉植物・写真・カレンダー・家庭用の装飾品・季節の飾りに手作り暖簾・安らぎ作用がある暖色照明など、工夫している。	家庭的なしつらえを配置し、温かみのある照明の居間では入居者が寛ぐ様子が窺えた。廊下や居室近くにソファやテーブルを設置し、1人で過ごしたい時や家族・知人との団欒を持てる場として居心地良く過ごせるよう配慮している。家族が訪問時に持参する花を入居者自らが生け花している様子もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に、一人や少人数で過ごせるソファや椅子を数か所設けている。実際に生活の中で活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前面接で確認した自宅居室を再現できるように、安心感につながる説明をして支援している。	入居者が使い慣れたテーブル・椅子・仏壇等を持ち込み、自宅居室に近い雰囲気を作るよう努めている。思い入れがある家具を持ち込めるよう、職員がトラックを運転し協力した事も過去にはあった。入居前と同じ習慣でお経を唱える方もおり、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー設計で、一人でも自立できるように手すりを追加したり、福祉用具も活用している。		